

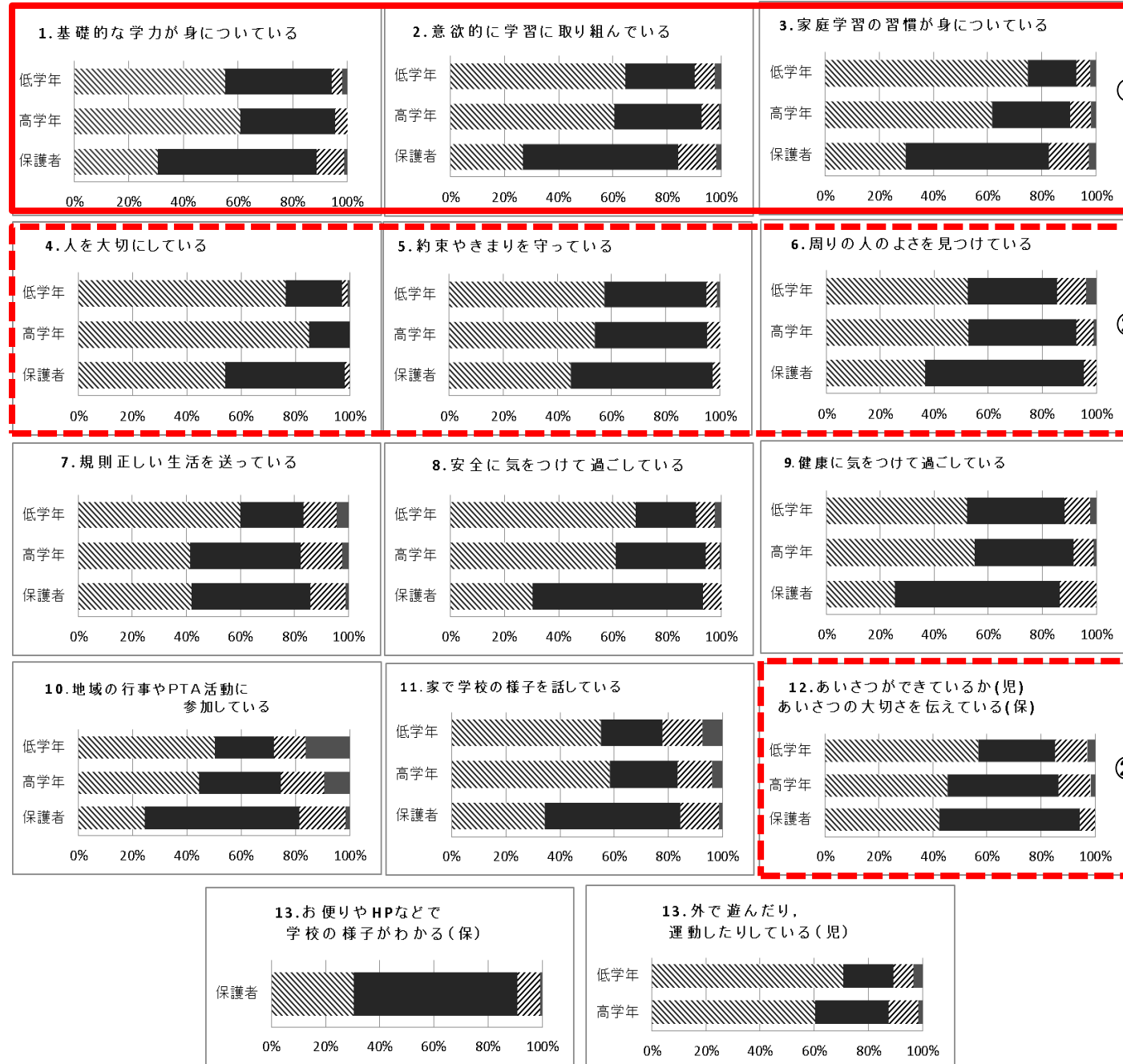
桂坂だより 特別号

学校生活について（ふりかえり）アンケート結果【前期】

令和元年10月18日
京都市立桂坂小学校
校長 若松 美里
TEL 333-1101
FAX 333-1102

★児童・保護者アンケートより

よくできている 大体できている あまりできていない できていない



お忙しい中、学校づくりアンケートにご協力いただきありがとうございました。このアンケートは、子どもたちや保護者、地域の方々の一人一人の声を大切にすると共に、共通認識のもと連携して取組をすすめ、子どもたちの学校生活をよりよいものにすることを目指しています。



【児童・保護者アンケート結果から】

子どもたちや保護者のみなさんからのアンケートの結果・日々の子どもの様子を合わせて、全教職員で分析を進めています。



①基礎的な学力・学習への意欲

学習に関わる1・2・3の項目について児童・保護者ともに80%以上の肯定的な回答がありました。しかし、基礎的な学力に不安を感じたり、学びに意欲をもちにくかったりする子どもたちも各クラスにあり、支援の必要なところは一人一人ちがっています。授業や家庭学習の工夫とともに、お家の方の協力を得ながら、それぞれの苦手なところに焦点を当てて指導する機会を増やす必要を改めて感じています。

改善へのポイント▶

- わかりやすい授業
- 家庭学習の内容の工夫
- 家庭との連携

②人間関係力の育成

4・5・6は、人とよりよい関係を築く力（人間関係力）に関わる項目です。これらも肯定的な回答が多く、人との関わりをプラスにとらえている様子がわかります。一方で、12の結果や保護者からの自由記述欄から、だれに対しても自分から進んであいさつすることには課題があります。「おはよう」「ありがとう」などの言葉は、お互いの存在を承認しあう大切なものです。引き続き、学校でも家庭でもあいさつの大切さを伝えるとともに、改善に向けたいろいろな取組を重ねていくことが大切だと考えています。

改善へのポイント▶

- 大人が“あいさつ”する姿を見せる
- ソーシャルスキルとしての“あいさつ”
- あいさつの大切さを感じる場づくり

今回の結果や自由記述欄の内容を客観的かつ謙虚に受け止め、指導や取組の改善を図り、より一層充実させていきたいと考えています。

★よりよい学校づくりに向けて

改善のポイントから、すぐにできることを全教職員で考え、動き出しています。



教職員同士の学び合い

お互いの取組を交流したり、外部の専門家を招いたりして、よりよい学級集団づくりを目指して取組を進めています。



地域学習

生活科や総合的な学習の時間で、地域にお住まいの方々に、桂坂地域について教えていただいています。子どもたちは教師以外の大人から、あいさつやマナーなど社会に必要なスキルを学ぶ機会を得ています。



ほっとタイム

- ・ソーシャルスキルトレーニング
- ・構成的グループエンカウンター

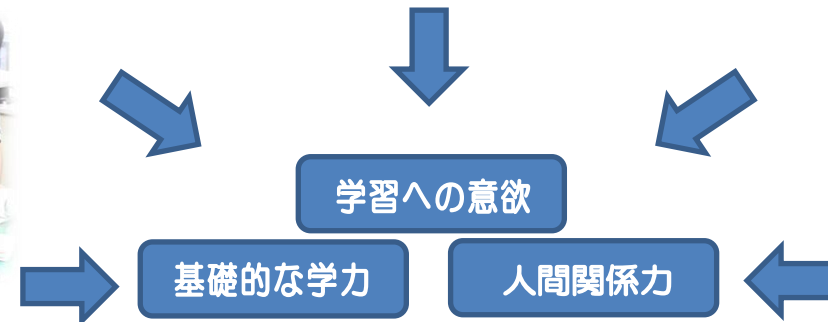


2週間に1回、学級や学校全体で取り組んでいます。子どもたちは、人の温かさを感じたり、よりよい関係をつくるスキルを学んだりしています。



あいさつ運動

声かけ運動や教職員や児童会によるあいさつ運動など、学校ではいろいろな機会をつくって、あいさつができる桂坂の子を目指しています。



★9月26日（木）第1回学校運営協議会（PKF：プロジェクト・カザラッカ・フォレスト）より

学校評価「保護者・児童アンケート」の結果を受けて、学校運営協議会（PKF）で話し合いを行いました。

学習への意欲

基礎的な学力

アンケートの結果から、子どもたちが意欲的に学習に取り組んでいることが分かる。

学校では、地域学習やキッズプランなど、学習への意欲や学力を伸ばすために、様々な取組がされている。キッズプランは、子どもたちが興味を持ったことに対して、探究してみようとする姿勢を持つことが大事。納得いく答えにたどり着けなかったとしても、実践したことが次につながると思う。簡単に答えが出ないことに気付くことも大事。

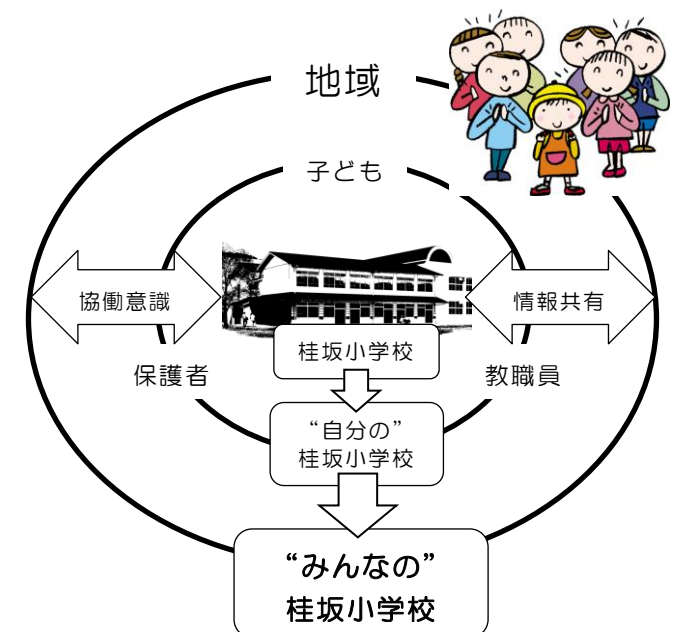
さらにこれからは、どのように学ぶか、学んだことをどのように生かすかが学力として大切になる。そこで、なぜ勉強するのか、なぜ働くのかなどについても、小さい頃から考え、学ぶ機会をつくる必要があると思う。また、地域活動などに参加することで、“誰かのためになることが嬉しい”という体験をすることが、結果的に学んだことを生かしていける社会人に繋がるのではないかな。

人間関係力

学校は、子どもたちが素直に思いを言える雰囲気ができている。頑張ることは大事であるが、自分の困りやしんどさが素直に言え、受け入れてもらえることも大事。

“あいさつ”はよく課題に上がるが、あいさつしたくても性格的にできにくい子もいる。そういう子どもたちの思いを『ほっとタイム』などでくみ取ってあげられるとよい。しかし、先生が余裕をもっていないと、子どもたちの関係をきちんと見取れない。余裕がもてる体制をつくることも大事。

子どもたちを地域で支えるための関係を、子どもたちと地域で作っていききたい。そのためにも、地域の行事に参加してほしい。また、桂坂小学校区には、たくさんの公園もある。この地域のよさを生かして、公園での遊びを通して、子どもや大人のつながりができるとよい。遊びを通じた関わりの中で人間関係力を育むことができるのではないだろうか。そのような環境の中で、あいさつをする子も増えてくると思う。



今回いただきました貴重なご意見を受けまして、すべての子どもが楽しいと思える学校の実現を目指して、今後も教育活動に取り組んでいきたいと思います。保護者や地域の皆様にもご理解ご協力いただきますようにどうぞよろしくお願いいたします。